

千葉県旭市（国内 43 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 3 年 2 月 6 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、平野部につながる丘陵地に位置し、付近は雑木林と畑に囲まれ、放棄水田が湿地化した谷戸に隣接している。
- ② 農場から約 1.0 km の距離にある放棄水田が池となっていたが、調査時には水鳥類は確認されなかった。農場から約 4.0 km の距離にある堰には、約 1 万羽の水鳥類が認められた。
- ③ 当該農場には金網式の床で仕切られた 3 階建て構造のウィンドレス鶏舎が 2 棟あり、各棟の内部は壁で区分され、1 棟あたり 2 鶏舎となっていた。発生時には、1 つの鶏舎を除く全ての鶏舎で採卵育成鶏が飼養されていた。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎における 1 日あたりの死亡鶏は、0~8 羽程度で推移していたとのこと。
- ② 2 月 1 日に、発生鶏舎の 3 階、鶏舎中央付近の同一ケージで 3 羽死亡していたが、飼養管理者が解剖したところ、前月に行ったワクチン接種によるうっ血が確認されたことから、経過を見ていたとのこと。
- ③ 2 月 5 日に、発生鶏舎で 19 羽の死亡が確認され、このうち 2 階及び 3 階の鶏舎奥側で 1 ケージずつ、それぞれ 3 羽のまとまった死亡が確認された（2 月 1 日に 3 羽の死亡が確認されたケージ付近ではない）ため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では 9 名の専属の従業員が鶏舎管理を担当していた。飼養管理者によると、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏の回収を行っていたとのこと。
- ② 鶏舎ごとに担当者は決まっておらず、今年に入り、ワクチン接種作業に人員を割かれ、鶏舎管理を 1 名の従業員が行うことも多かったとのこと。
- ③ 鶏の導入時及び出荷時には、系列会社の従業員が手伝っていたとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理者によると、従業員は農場に入る際は、農場専用の作業着及び長靴を着用していた。また、鶏舎に入る際は鶏舎専用の作業着、長靴及び手袋の着用と手指消毒を実施していた。ただし、一部の従業員が消毒等を行わないことがあり、指導したことがあったとのこと。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低い状況であった。
- ③ 飼養鶏への給与水は水道水を使用していた。
- ④ 発生鶏舎の鶏糞は除糞ベルト及びベルトコンベアで鶏舎から堆肥舎まで直接運搬され、堆肥化していた。
- ⑤ 飼養管理者によると、健康観察時に回収した死亡鶏は、鶏糞運搬用のベルトコンベアで堆肥舎まで直接運搬して、鶏糞とともに堆肥化していたとのこと。
- ⑥ 飼養管理者によると、発生鶏舎を含む全鶏舎は、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏舎内の清掃・消毒を行っていたとのこ

と。

- ⑦ 飼養管理者によると、昨年、国内で高病原性鳥インフルエンザの初発事例が確認されて以降は、農場敷地内全体への石灰粒の散布を行っていたとのこと。
- ⑧ 飼養管理者によると、車両が農場敷地内に入出入りする際、入口に設置された消毒ゲート及び動力噴霧器による消毒を行っていたとのこと。
- ⑨ 発生鶏舎の構造は、鶏舎奥側の壁面に設置された換気扇から排気し、天井裏の給気口から給気するタイプの鶏舎であり、換気扇の内側には開閉可能な板が設置されていた。飼養管理者によると、天井裏の給気口には防鳥ネット（マス目は約2.0×2.0cm）が設置されているとのこと。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場敷地内ではネコ、カラス、スズメ等が確認されることがあるとのことであり、調査時にも、農場敷地内でカラスや小型鳥類が確認された。
- ② 飼養管理者によると、鶏舎内でネズミを見かけることはないが、ネズミの足跡が確認されたことはあったとのこと。日常的にネズミ対策（殺鼠剤及び粘着シートの設置）を実施しているとのこと。
- ③ 飼養管理者によると、鶏糞運搬用のベルトコンベアの鶏舎側の開口部は、運転時以外は板で閉じられているとのこと。